

令和8年9月30日

田原本町合併70周年

新しい田原本町の幕開け

『昭和31年開庁式の式辞より抜粋』

※読みやすくするため、わかりやすい表現にしています。

モズが鳴き菊が香る本日、新しい田原本町が発足する歴史的で輝かしい開庁式を迎えることができ、この上ない光栄であり大きな喜びです。さかのぼること昭和29年、4カ町村（多・平野・都・田原本）の合併を提唱しましたが、当時は時期尚早であり実現には至りませんでした。しかし本年（昭和31年）4月、さらに川東村を加えた「5カ町村」による大同団結の話し合いが始まりました。各村の事情により「生みの苦しみ」とも言える紆余曲折がありましたが、合併委員の皆様の揺るぎない信念と皆様の総力結集により、ついに歴史的な大転換期を迎えることができました。深く感謝申し上げます。

こうした合併の過程では感情的な

わだかまりが伴うものですが、どうかすべてを水に流していただき、小さな違いにはこだわらず大局的な視点に立って、明るく楽しい住みよい町づくりのために皆で切磋琢磨していきましよう。

私自身、農業施策や住民の皆様の福祉向上、文化・産業の振興に全力を注ぐ覚悟です。旧5カ町村から集まった職員の皆様も、環境の変化で苦勞が多いと思いますが、どうか心を一つにして職務に励んでください。

新しい田原本町の理想郷実現に向け、皆様のより一層のご協力をお願い申し上げます。

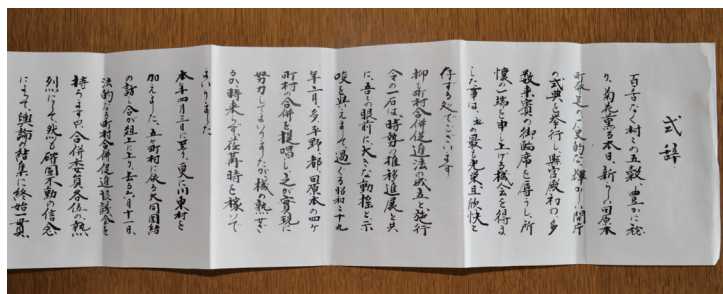
昭和31年9月30日

町長職務執行者 辰巳脩二郎

現在の田原本町は、昭和31年9月30日に多村・川東村・平野村・都村・旧田原本町の5カ町村が合併して誕生し、今年合併70周年を迎えます。それにあたって、田原本町発足時の開庁式の式辞と現町長のメッセージを掲載します。



町長職務執行者
辰巳 脩二郎



昭和31年開庁式の式辞

田原本町のあゆみ

昭和39年



東京オリンピック
聖火ランナー

昭和34年



町村合併並びに
庁舎落成祝賀会

昭和初期



田原本駅前殿町通
(田原本音頭)

昭和初期



大和鉄道

町長メッセージ

受け継ぐまち、切り拓く未来

本年9月30日、田原本町は合併70周年という大きな節目を迎えます。

昭和31年同日、合併の告示は時の内閣総理大臣鳩山一郎氏によってなされ、新町建設の基本方針には「立地条件、環境条件等の等しい5カ町村の状態で鑑み農業立町の方針に基づき生産の拡充と、交通路の開拓を図り生産力経済力の充実を期し健全財政を基調として住民の福祉を増進する。教育施設を充実整備して教育の振興と農村文化の向上を期する」ことが謳われました。なるほど、手段こそ時代とともに変わりましたが、経済の力を高め、教育を充実させ、住民の幸せを追求するという志は、70年を経た今も変わるものではありません。

未来を見据えて

今日の田原本町があるのは、これまで町の歩みを支えてこられた先人のたゆまぬ努力があったからにほかならず、基本方針に謳う農業に加えて商工業が大きく発展しました。また、全国的にも先駆的な「ReBORNプロジェクト」による

新たな産業集積への挑戦や、まほ

ろば小学校の建設をはじめとする教育への投資が進むなど、未来を見据えた取組も大きく進んでいます。

田原本町の持つ「ちようどよさ」

田原本町には、2000年を超える人々の営みがあります。都市の利便性や活力と、田園のゆとりや豊かな自然、歴史・文化、地域のつながりがあります。私は、それらを併せ持つ「ちようどよさ」こそ、田原本町の大きな価値だと考えています。

70年前に辰巳町長職務執行者は「新しい田原本町の理想郷」を実現する旨を宣言されました。理想郷の具現化こそが、田原本町の「ちようどよさ」であり、先人が築いてこられたこの「ちようどよさ」の価値をさらに高め、次の世代へ手渡すことができるよう挑戦を続けてまいりましょう。

長い歴史の中で、田原本町に関わってくださった全ての皆様に感謝を申し上げますとともに「新しい田原本町の理想郷」実現に向け、皆様の一層のご協力をお願い申し上げます。



田原本町長
高江 啓史



まほろば小学校外観イメージ
(南東から)



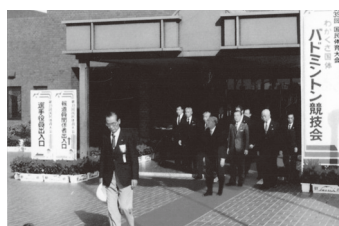
TAWARAMOTO ちゅうしん
ReBORN STUDIO

平成 23 年



皇太子殿下（当時）唐古・鍵考古学ミュージアム視察

昭和 59 年



第39回国民体育大会わかくさ国体 昭和天皇ご臨席

昭和 53 年



木造杉皮ぶきアーケード

昭和 49 年



田原本公設市場
(旧映画館旭館)

連続インタビュー 第4回

住民の皆さんに改めて田原本町への愛着を深めていただけるよう、町に縁のある人々に町の魅力や地域への想いを語っていただく連続特集をお届けしています。

第1回では、田原本の歴史を守り、その価値を未来へ伝える人々を、第2回では、町の魅力を発信し、農業や観光を通じて地域の豊かな資源を次世代へつなぐ人々を、第3回では、音楽や見守り活動、福祉ボランティアなど、人々とのつながりを育みながら地域課題に向き合う人々を紹介しました。

第4回となる今回は「産業」をテーマに、地域経済を支え、暮らしに寄り添いながら町の未来を育む取り組みに注目します。

商工業やものづくり、地域資源を生かした挑戦は、私たちの暮らしを支えるだけでなく、地域への誇りや愛着を育み、次の世代へ田原本町の魅力を受け継ぐ大切な力でもあります。

地域に根ざした産業がどのように町の未来につながっていくのか、その想いや地域へのまなざし、将来への願いを伺いました。

70周年カウントダウン

町民の皆さんと一緒に合併70周年を盛り上げるため、9月30日の合併記念日まで、田原本町公式Instagramでカウントダウン写真を毎日掲載します。

笑顔あふれる写真とともに、70周年をみんなでお祝いしましょう。
ぜひご覧ください！



祝・タワラモトン

9月30日は町公式キャラクター「タワラモトン」のお誕生日です。いつも田原本町の魅力を元氣いっば

いPRしてくれているタワラモトン。これからも皆さんと一緒にたくさんの思い出をつくりながら町を盛り上げていきます！



「支える」が、仕事

田原本町商工会では、町内事業者の経営相談や金融・税務・労務・共済の支援をはじめ、創業支援や事業承継、A・I・T活用セミナーなど、経営を支える幅広い事業を行っています。また「たわらもと十六市」や青年部による「どろんこバレーボール大会」などを通じて、地域にぎわいを生み出し、町の魅力を発信しています。

現代版井戸端会議

商工会の役割は、事業者を支えることだけではありません。商工会長を務めて4年になりますが、一番実感しているのは、人と人とのつながりが広がったことです。商工会には約570の会員事業者がおられ、小規模な個人事業主から大企業まで様々です。異なる業種や立場の人同士をつなぐ橋渡しも、商工会の大切な役割です。

子どもの頃、田んぼのあぜ道で農家のおっちゃんたちが井戸端会議をしていました。今思えば、あれは大切な情報交換の場だったんですね。電話やメールで済む時代だからこそ「現代版の井戸端会議」が自然と生まれるような場づくりを通して、人と人とのつながりを育み、新た

今のあたりまえを、これからもあたりまえに



田原本町商工会
会長
吉川 眞司さん

また、大和平野の中央という地の利や、世界文化遺産「飛鳥・藤原の宮都」の登録などは、田原本町の発展にとって大きな可能性になるといえます。その魅力を地域全体で磨き、発信しながら、多くの人に町を知ってもらい、訪れてもらうことも大切です。今ある住みやすさや人とのつながりを大切にしながら、誰もが心豊かに暮らせる「当たり前」の日常を、これからも変わらず未来へつないでいきたいと、吉川さんは語られました。

な挑戦や地域の活力につなげていきたいです。
当たり前を未来につなぐ
私にとって田原本町は、本当に住みやすい町です。住民の皆さんが優しく温和で、人とのつながりが自然にあることが、この町の魅力だと思います。全国的な人口減少が進む中でも、努力を重ねることで今の暮らしや町の良さを守り、より良いまちづくりにつなげていけると信じています。

地域とともに歩む金融機関

奈良中央信用金庫は、中小企業や個人を支える地域金融機関として、創業以来「常に地元の皆さまと共に、地元の発展に貢献する」という理念を大切にしてきました。

「地域の発展なくして金庫の発展なし」という考えのもと、金融サービスだけでなく、地域課題の解決や人づくりにも力を注いでいます。

田原本町は創業の地であり、78年間支えていただいた特別な場所として、地域とともに歩み続けています。

挑戦を支え、新しい価値を育む

田原本町には大きな可能性があると感じています。旧本店を活用した「TAWARAMOTOちゅうしん REBORN STUDIO」を整備したのも、ここから新しい挑戦が生まれてほしいという思いからです。

スタートアップ企業と地元事業者がつながり、新たな雇用や産業が生まれるよう、私たちは『後方支援』に徹したいと考えています。

また、ぎおん祭へのボランティア参加や、子どもたちを対象にした「ちゅうしんキッズクラブ」の開催など、地域とのつながりも大切にしています。子ども

地域と共に歩み、未来への挑戦を支える



奈良中央信用金庫
会長
高田 知彦さん

もの頃から地域の人と触れ合い、地元に着目を持つことは、将来のまちづくりにもつながると思います。地域の未来を担う人材を育てることも、地域金融機関として果たすべき大切な役割だと考えています。

共に未来へ

田原本町は、私たちにとって創業の地であり、地域の皆さんに育てていただいた大切な場所です。だからこそ、地域が元気になることが、私たち自身の喜びでもあります。

行政や地域、事業者がそれぞれの強みを生かしながら連携し、新しい挑戦を後押しすることと、田原本町にはさらに大きな可能性が広がると感じています。

これからも地域と運命共同体という思いを胸に、金融の枠を超えて地域の挑戦を支え、田原本町の未来づくりに貢献していきたいと高田会長は語られました。

復活した醤油蔵の挑戦

マルト醤油は、令和2年に約70年ぶりに醤油醸造を復活させた、全国唯一の「泊まれる醤油蔵」です。田原本町産の大豆や小麦など地域の素材を使った醤油づくりを中心に、宿泊や食事を通じて、町の歴史や文化、自然の魅力を伝えていきます。

地域が育む温かさ

事業を始めて感じるのは、私自身がお客様から田原本町の価値を教えていただいているということです。地域に住んでいると、田園風景や静かな環境、昔から変わらない景色を当たり前前に感じています。しかし、お客様から「夜の静けさに驚いた」「朝、鳥の声で目覚めた」「この景色が残っていることに感動した」といった声をいただき、自分たちでは気づかなかったものが、外から見ると大きな価値になることに気づかされています。

地域の価値に気づくきっかけになればという想いで、東小学校児童の校外学習の受け入れを行っています。子どもたちから「何もないのに、どうしてここに人が来るの?」と聞かれた時「みんなが毎日見ている田んぼや風景は、地域の

近くにいと気づけない大切なもの



株式会社マルト
代表取締役
木村 浩幸さん

人たちが長い時間をかけて守ってきたもの。外から来る人にとって、大切な価値として感じてもらえるものなんだよ」と伝えました。すぐに理解できなくても、大人になった時に、自分たちの暮らす地域の価値に気づくきっかけになればうれしいと思っています。

また、道に迷ったお客様に住民の皆さんが自然に声をかけ、案内してくださる姿もあります。訪れる人を地域全体で迎える空気が、この町ならではの魅力につながっていると感じます。

未来へつなぐ価値

10年後も、田原本町が持つ歴史や自然、人とのつながりが大切に受け継がれる町であってほしいと思います。地域に根付く文化や暮らし、人とのつながりといった魅力を未来へつなぎ、住む人が誇りを持てる町になってほしいと願っていますと木村さんは語られました。